

火山国の日本には、黒曜石を産出する場所がたくさんあります。その中でも長野県和田峠は非常に有名です。良質な黒曜石を産し、古来から文明や物流が発達した土地でもありました。

和田峠の黒曜石の特徴の一つは、水分含有量の多さでしょう。黒曜石はマグマが急冷して形成された、非晶質の火山ガラスです。もともとマグマに含有されていた水分が、発泡する間もなく石の中に包含されてしまったのです。黒曜石の小片を、耐熱レンガやステンレス網にのせて、上から直接バーナーで熱すると、内部の水分が膨張します。黒かった黒曜石片がみるみる発泡膨張して、真っ白な「パーライト」に変化します。

現在の和田峠では、黒曜石をまとめて採取できる場所はほとんどありません。しかし、旧中山道の山道の道端や自動車道脇の空き地を探すと、意外にもたくさん見つかります。八島湿原のハイキング道でも見つかることがあります。この日は友人と二人で拾いに行きました。ほとんどは直径1cmの小粒ですが、これがちょうど「パーライト化の実験」には最適の大きさなのです。時々直径3~4cmのものも見つかりました。二人で小一時間拾い続けましたが、大小200個ぐらいは集まったと思います。

(2024年8月上旬/長野県和田峠)

